



十六銀行

十六アジアレポート 2020年8月号

JUROKU ASIA REPORT AUGUST 2020

2020年8月3日 発行

十六銀行 法人営業部 海外サポート室

目次

1. 上海:「ECにより変化する農村地域と貧困脱却」
上海駐在員事務所 村瀬範晃
2. シンガポール:「新型コロナ下で実施された総選挙」
シンガポール駐在員事務所 富田邦裕
3. タイ:「第41回バンコク国際モーターショー」
バンコク駐在員事務所 堀江幸康
4. ベトナム:「観光関連産業へのインタビュー」
ハノイ駐在員事務所 ファン ホアン ミイ
5. 為替相場情報

本書中の情報は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては全てお客様御自身でご判断くださいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行及び執筆者はその正確性を保証するものではありません。また、本書中の情報は、法律上、会計上、税務上の助言を含むものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談ください。

1. 上海:「ECにより変化する農村地域と貧困脱却」

上海駐在員事務所 村瀬範晃

2020年5月、第13回全国人民代表大会（全人代）閉幕後の記者会見で李克強首相が「中国は人口が多い発展途上国であり、中国国民1人あたりの平均年収は3万元（約45万5,000円）ですが、月収が1,000元（約1万5,150円）の人たちが6億人います」とコメントをしたことが話題になりました。今月は、今なお課題とされている中国における「貧困脱却」について、最新のEC事情も絡めながらご紹介したいと思います。

■農村貧困人口の推移

中国で貧困人口を算出する根拠は「貧困基準」と呼ばれ最初に定められたのは1978年でした。またその基準となる金額は人口1人あたり平均の年間収入100円で、当時この基準に達しない貧困人口は2.5億人でした（図表）。

以後、中国政府の長期的な政策により年々貧困人口は減少し、2016年に発表された第13次5か年計画において2020年には貧困人口をゼロにする計画が打ち出されるまでに至り、今年はずっとその最終年度にあたりますが、コロナ禍により達成が厳しい状況のようです。

図表【中国・貧困基準と貧困人口の推移】

年	貧困基準(旧) 収入(元/年)	貧困基準(新) 収入(元/年)	貧困人口 (万人)
1978	100		25,000
1990	300		8,500
2000	625		3,209
2010	1,274		2,688
		2,300	16,567
2011	-	2,536	12,238
2012	-	2,625	9,899
2015	-	2,968	5,575
2017	-	3,335	3,046
2018	-	3,535	1,660
2019	-	3,747 (約53,700円)	551

（出所：中国国家統計局）

※2010年に貧困の基準を変更し、年間の収入を1,274元→2,300元としたことで対象者が急増した。

■ECにより変化する農村地域

2020年は、突然の新型コロナウイルス感染症の流行により貧困地区の農民の収入や農民出稼ぎ労働者の流動、農産物の販売等の面に困難をもたらしました。しかしここ数年で急激に成長を遂げているライブストリーミングとEコマース（電子商取引）を組み合わせた「ライブコマース」により、農村地域にも変化をもたらされました。ライブコマースを通じて消費者は生産者を知ることができ、生産者と消費者との距離が縮まり、様々な農産物がより多くより遠くまで届けられ、農村の起業や雇用も促すようになりました。また、農村のネット通販によって多くの出稼ぎ労働者や大学生等がUターン起業を希望するようになる等ますます活況を呈し、2014年に1,800億元（約2.7兆円）であった農村のネット小売額は、2019年には3,975億元（約6兆円）に達し、貧困農民300万人の増収につながるまでに至りました。



【ネット上の生放送で消費者に直接商品を紹介する生産者】

■所見

大国であるがゆえ多くの困難を抱える中国。2020年は第13次5か年計画の仕上げの年であり、貧困脱却への決戦の年とも言われています。新型コロナウイルスの影響により今年度中の達成は危ぶまれてはいますが、5Gやライブコマースをはじめ中国でますます発達するテクノロジーは確実に貧困脱却の一助になることが見込まれています。

2. シンガポール:「新型コロナ下で実施された総選挙」

シンガポール駐在員事務所 富田邦裕

シンガポールでは新型コロナを警戒する中、7月10日に総選挙が実施され、リー首相率いる与党・人民行動党 PAP が定数 93 議席中 83 議席と、圧倒的多数を獲得して勝利しました。1965 年の建国以来、与党 PAP が 9 割を超える議席を占めていましたが、今回は野党・労働者党 WP が前回 15 年の 6 議席から 10 議席に伸ばしました。2 桁の議席獲得は過去最大で、実質一党支配を続けてきたシンガポールにとっては大きな転機となりました。今回は総選挙の様子をお伝えしたいと思います。

今回の投票率は 96% と報じられました。シンガポールでは、選挙に行かないと後日罰金通知が来るため、ほぼ全員が投票します。与党 PAP は勝利したものの、その得票率は前回の 69.9% から 61.2% に大きく下がり、リー首相は「若年層の PAP 離れが苦戦の原因」と発言しました。選挙戦では、新型コロナの影響により大規模な集会が禁止されたため、候補者が各選挙区内のホーカーセンターと呼ばれる屋台街を回り、有権者一人ひとりに直接支持を呼びかける姿を目にしました。



【シンガポールの国会議事堂】

ただ与党 PAP の候補者は自ら各テーブルを回り有権者へチラシを配っていたのに対し、野党 WP の場合は、支持者が候補者に近寄り写真撮影を求めているのは対照的でありました。野党 WP は若い世代の支持が高く、特に党首が若者と真剣に意見を交わす場面は印象的で、将来の有権者となる子供も傍らで聞いていました（写真）。



【有権者に支持を呼びかける与党 PAP 候補者（中央）】

現在新型コロナの影響で経済は低迷しており、選挙戦の最大の争点は経済・雇用対策でした。2020年4～6月期の実質国内総生産 GDP 成長率は前年同期比▲12.6%と過去最大のマイナスとなっています。特に建設業は、新型コロナ感染対策の措置で建設工事が一時中断したことや、感染が拡大した居住施設に住む外国人建設作業者の外出が規制されたことが影響し、大幅に下落しました。サービス業も渡航制限でホテル、航空など大きく下落しています。同時に失業率も高まっており、雇用に関して、野党 WP はこれまで与党 PAP が進めてきた外国人の雇用規制厳格化をさらに強化すると発表しました。以前より外国人が専門職の雇用機会を奪っているとの意識が一部の国民に根強くあるようです。



【有権者と意見を交わす野党 WP 候補者（中央右）】

シンガポールはビジネス環境が整っており、親日で治安も安定しているのは、政権が安定しているためです。ところが国民の自由な発言機会は抑えられていたため、多民族が暮らす国民の間で不満や不安が拡大しており、その受け皿となる政党の必要性が高まっていたことを知りました。辛勝した与党 PAP は求心力回復に向けて、さらに外国人労働者の数を減らしていくとの見方を示しています。新型コロナ下において積極的な雇用支援を行ってきた政府の今後の取組みに注目したいと思います。

3. タイ:「第41回バンコク国際モーターショー」

バンコク駐在員事務所 堀江幸康

去る7月15日、バンコク北郊ノンタブリー県のイベント総合施設「インパクト・ムアントンタニ」において、自動車展示・販売会『第41回バンコク国際モーターショー』が開幕しました。非常事態宣言の発令下ということもあり、新型コロナウイルスの感染防止のため、来場される方々に対してマスクの着用や入退場時間の記録を義務付け、サーモグラフィーによる検温を実施し、各メーカーのブース内の収容人数を制限するなど、十分な対策をとった上での開催となりました。

当初、同モーターショーは3月の開催が予定されていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、開催が見送られていました。その後3度の順延を経てようやく開催が実現しました。このような大規模な自動車展示会が開催されるのはコロナ禍に苦しむ世界で初めてであると言われており、7月26日までの開催期間中、開催を待ち望んでいた多くの方々が会場を訪れました。



■販促イベントの意味合いが強い『バンコク国際モーターショー』

日本で開催されている、世界五大モーターショーの一つである『東京モーターショー』や、名古屋や大阪、仙台で開催されているモーターショーは、自動車に関する最新の技術やデザインについての情報を紹介することが趣旨となっているのに対して、ここタイ王国の『バンコク国際モーターショー』は、新車発表会と販促イベントとしての意味合いが強くなっています。

27の自動車ブランドと12のバイクブランドが会場に集い、熱心にセールスを行う姿があらこちらのブースで見受けられました。来場された方々もキャンペーンや大幅な値引きなどを期待している様子で、コロナ禍の影響で落ち込んでいた自動車販売の回復に向けた、一つのきっかけとなったのではないかとされています。

■国内における内需の回復は期待できるものの…。

東南アジア最大の自動車生産拠点となっているタイ王国では、コロナ禍の影響による国内外での自動車需要の減退を受けて、3月下旬から各メーカーが相次いで生産を停止しました。4月下旬からは生産再開の動きが見え始めてはいましたが、現在も調整を続けているメーカーもあります。

タイ工業連盟（FTI）が7月23日に発表した2020年上半期（1～6月）の自動車生産台数は、前年同期比43.1%減の60万6,132台でした。今後、タイ王国内で新型コロナウイルス感染拡大の第二波・第三波が起これなければ、通年の生産台数は100万～140万台になるとの見通しが示されましたが、2019年の生産台数（201万台）からは大きく減少することが確実な情勢です。

タイ王国においては、幸いにして新型コロナウイルスの感染拡大が食い止められており、今後、内需は徐々に回復していくことが期待されますが、海外では依然として感染が拡大している地域もあることから、タイ王国の自動車生産が本格的に回復するのは、2022年以降になる恐れもあるとの厳しい見方もあります。回復の兆しは見えるものの、予断を許さない状況が続いています。

4. ベトナム:「観光関連産業へのインタビュー」

ハノイ駐在員事務所 ファン ホアン ミ

今年上半期のベトナム GDP 成長率は1.8%とプラスを確保しましたが、外国人の入国制限を継続していることで、観光収入は前年比50%以上減っています。このためベトナム政府は国内観光の促進に力を入れていく方針を示しています。観光業はコロナの影響が最も大きく、これから巻き返しを図らなければいけない業種だと思います。一部ですが、関連者へハノイでインタビューしましたのでご参照ください。



■Covid-19の影響に関するインタビュー (in Hanoi)

《旅行会社 (ベトナム系)》

今年1月末のコロナ第一報と同時に、ベトナム人のお客さんからのキャンセルが相次いだ。そして3月から観光産業はほぼストップした。上半期はツアー客数・売上高ともに半減した。国民の健康が最優先のため、仕方がないと思う。現在は、夏休みシーズンとなり色々な旅行商品を提供しており、特に自然の美しさとコロナ収束後の元気な街を体感できるツアーが人気。ここ1ヶ月で約2000名に利用されている。航空会社・ホテル・リゾートと協力して、4つ星・5つ星ホテルのサービスを楽しむコンボ・チャーターサービスを30%割引で提供している。



《四つ星ホテル (シンガポール系)》

短期滞在者は外国人60%、ベトナム人40%。今年上半期では、外国人滞在者(ベトナム駐在の外国人を含む)が50~60%、ベトナム人滞在者が20~30%減少した。ベトナムではコロナが早期に収まりつつあり国内移動が活発になってきているので、売上高は、ベトナム人の観光客で約20%、ベトナムに住む外国人の旅行者で約5%回復している。ホテルとしても20~40%割引のプロモーションを実施している。



《五つ星ホテル (日系)》

ハノイ5つ星ホテルの昨年までの稼働率は80~90%だったが、外出制限された4月には10%以下まで落ち込んだ。規制が緩和された5月から国内のヒトの移動が活発になり始めたが、コロナがベトナムの家計に与えた影響は大きく予算は少ない。そのため20~30%の宿泊割引を実施しているが、この値下げ合戦が長く続いても利益が減ってしまう。五つ星ホテルは外国人ビジネス客が中心で、所得の低いベトナム人は国内観光であり宿泊しないため、格安ホテルに比べて打撃は大きい。



(聞き手: 十六銀行ハノイ駐在員事務所)

ベトナムの重要な収入源である観光産業は試練を迎えています。7月24日、ダナン市で99日ぶりにコロナ陽性者が出たとのニュースがあり衝撃を受けました。これから第2波が来るかもしれません。このような厳しい状況にありますが、少しでも早い産業の回復を願っています。

5. 為替相場情報

(1) 人民元一円為替相場(中国人民銀行公表仲値)

(単位:1人民元当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
6月22日	15.07386	6月23日	15.13546	6月24日	15.08478	6月25日	-	6月26日	-
6月29日	15.12585	6月30日	15.19572	7月1日	15.27207	7月2日	15.22047	7月3日	15.22024
7月6日	15.22209	7月7日	15.27440	7月8日	15.32567	7月9日	15.31487	7月10日	15.32778
7月13日	15.27674	7月14日	15.32802	7月15日	15.32708	7月16日	15.28958	7月17日	15.32262
7月20日	15.30948	7月21日	15.34590	7月22日	15.33178	7月23日	15.34990	7月24日	15.27557



上記表、及びグラフはこの公表仲値を便宜的に1人民元当たりの日本円へ換算し直した相場です。

そのため、正式な人民元相場が必要な場合は、中国人民銀行にお問い合わせ下さい。

(2) ドルー円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
6月22日	106.77	6月23日	106.96	6月24日	106.52	6月25日	107.06	6月26日	107.12
6月29日	107.24	6月30日	107.74	7月1日	108.12	7月2日	107.49	7月3日	107.54
7月6日	107.65	7月7日	107.30	7月8日	107.69	7月9日	107.31	7月10日	107.13
7月13日	106.84	7月14日	107.27	7月15日	107.30	7月16日	106.99	7月17日	107.28
7月20日	107.52	7月21日	107.25	7月22日	106.89	7月23日	-	7月24日	-



(3) タイバーツ-円為替相場(当行公表仲値)

(単位: 1バーツ当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
6月22日	3.4400	6月23日	3.4600	6月24日	3.4600	6月25日	3.4700	6月26日	3.4700
6月29日	3.4700	6月30日	3.4900	7月1日	3.4800	7月2日	3.4700	7月3日	3.4600
7月6日	3.4500	7月7日	3.4600	7月8日	3.4400	7月9日	3.4500	7月10日	3.4300
7月13日	3.4200	7月14日	3.4200	7月15日	3.4100	7月16日	3.3900	7月17日	3.3800
7月20日	3.3900	7月21日	3.3700	7月22日	3.3900	7月23日	-	7月24日	-



(4) インドネシアルピア-円為替相場(参考値)

(単位: 100ルピア当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
6月22日	0.7600	6月23日	0.7600	6月24日	0.7600	6月25日	0.7600	6月26日	0.7600
6月29日	0.7600	6月30日	0.7600	7月1日	0.7700	7月2日	0.7600	7月3日	0.7500
7月6日	0.7400	7月7日	0.7500	7月8日	0.7400	7月9日	0.7500	7月10日	0.7500
7月13日	0.7500	7月14日	0.7500	7月15日	0.7500	7月16日	0.7400	7月17日	0.7400
7月20日	0.7400	7月21日	0.7300	7月22日	0.7300	7月23日	-	7月24日	-



(5) シンガポールドル-円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
6月22日	76.3800	6月23日	76.8700	6月24日	76.6700	6月25日	76.9100	6月26日	76.9800
6月29日	77.0000	6月30日	77.3100	7月1日	77.5500	7月2日	77.1100	7月3日	77.0600
7月6日	77.2800	7月7日	77.1800	7月8日	77.1500	7月9日	77.1600	7月10日	76.8800
7月13日	76.8900	7月14日	77.0800	7月15日	77.1300	7月16日	76.9900	7月17日	77.0900
7月20日	77.3500	7月21日	77.2400	7月22日	77.2600	7月23日	-	7月24日	-



(6) ベトナムドン-円為替相場(参考値)

(単位:1000ドン当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
6月22日	4.6000	6月23日	4.6100	6月24日	4.5900	6月25日	4.6100	6月26日	4.6100
6月29日	4.6100	6月30日	4.6400	7月1日	4.6600	7月2日	4.6300	7月3日	4.6300
7月6日	4.6300	7月7日	4.6200	7月8日	4.6400	7月9日	4.6200	7月10日	4.6100
7月13日	4.6100	7月14日	4.6200	7月15日	4.6200	7月16日	4.6100	7月17日	4.6200
7月20日	4.6300	7月21日	4.6200	7月22日	4.6100	7月23日	-	7月24日	-

